

すみだ区議会

自由民主党会派報

発行
 墨田区議会自由民主党
 墨田区吾妻橋1-23-20
 発行責任者 出羽 邦夫
<http://jimin-sumida.jp/>
 墨田区議会自由民主党のホームページを
 リニューアル致しました。
 ご意見・ご要望をお待ちしております。

第2回定例会本会議の開催

(6月14日~30日)

福田はるみ議員が会派を代表して本会議質問

第3回定例会本会議の開催

(9月9日~30日)

林つねお議員が会派を代表して本会議質問、あそう あきこ議員が一般質問

会派議員、盛岡市・青森市・函館市で視察研修

(7月27日~29日 研修報告は二面に掲載)

平成21年度決算委員会が10月22日(金)から開かれます

自由に参観できます。ご希望の方は議会事務局にお申し込みを。



墨田区防災訓練の様子(平成22年9月26日)

平成22年度第2回定例会本会議での質問概要 (平成22年6月14日～30日)

代表質問



福田はるみ

◆東京スカイツリー関連事業について

観光プラザ(仮称)について

観光プラザの賃料、契約期間等については、現在段階でその詳細を報告できる状況には至っていないが、限り低額となるよう強く要望している。契約期間については、少なくとも当面は10年程度の期間とし、その後は運営状況等を検証した上で見直しを行う。

観光プラザが予定される東区5階は、観光イベントスペースとして位置付けられており、タワー展望台からの多くの観光客の動線であること、最大限に生かして、すみの歴史・文化のつくりなどの観光情報の発信拠点として、現在、認証準備を進めている「すみだブランド」の商品をはじめ区内産品の展示・即売のほか、おもてなしの演出や交流を育むイベント空間として、すみの魅力を強くアピールしていきたいと考えている。

産業・観光振興施策の一助として「すみだの駅」を

今、地方の観光地で人気のある「道の駅」の発想で、墨田区にも「地域振興施設」(休憩機能「情報発信機能」)「地域の連携機能」を併せ持つ「すみだの駅」をつくることを提案した。例えば、大横川親水公園からタワーへのゲートウェイとして、釣り堀周辺から業平橋ステップ学校の施設が候補地としては最適でないかと思っており、ノミの市感覚で区内業者が気楽に出入りできるものを、できるだけ早く着手していただきたい。また、現在解体中の下水道局業平橋ポンプ所はこの先、10年間にわたる工事の予定があると聞いている。このポンプ場の屋上を公園や憩いの場として使用できないかぜひとも都に要望を出していきたい。

観光客は錦糸町からスカイツリーに至る区

の南北を縦断する散策路として、重要な観光資源の一つであると認識している。提案のすみだの駅候補地として挙げられた大横川親水公園の釣り堀については、長く区民に親しまれてきた経緯もあり、代替施設の提供なしで廃止することは難しいものと考え、今後この釣り堀の利用状況や新ターミナルが完成したときにどのような利用がされるのか等を踏まえ、その周辺の整備と併せて検討してまいりたい。また、下水道局業平橋ポンプ所の屋上利用については、現在、都市型水害軽減のための再構築工事が進められており、高さが20メートル程度



解体工事中の業平橋ポンプ所

北十間川の川沿いを歩行者天国に

この川沿いは、観光客の増加で週末など車が行き交う危険な状況に陥り、住民の方に迷惑がからぬように周辺警備の強化をしていただきたい。現状と今後の区への対応について伺いたい。なお、現時点では人道橋の名前が付いていないが、ネーミングラッシュを募集することも提案する。

北十間川南側道路については、現在、土曜・日曜・祝祭日等にはバリエードを設置し、混雑のないよう努めているところであり、歩行者の安全確保は十分図られていると考えている。また、周辺警備については、地元からの要望があり、警備員を増員するために、本定例会に補正予算を計上させていただいている。

人道橋の名前の募集については、来年には橋の架設状況が目に見えてくるので、その時期に合わせて、ネーミングラッシュを採用するかも含め公募等により橋名を決定してまいりたい。

◆若者の就職サポート事業について

この事業は、本年が最終年度に当たるが、今後、若者の就職サポート事業をどのような方向に持っていくのか、この事業の成果を含めて伺いたい。また、この不況の中、雇用促進支援をどのように考えているのか伺う。

平成16年度から区役所の庁舎1階に、すみだ求職相談コーナーを設置し、ハローワークの求人情報を提供するとともに、18年度からは若者就職サポートコーナーを新たにスタートさせるなど、さまざまな就労支援策に取り組んでいく。

若年者を対象に就職に関するさまざまな相談を受けるとともに幅広いサポートを実施しており、この間における個別相談、セミナーや企業見学会の合計利用実績は、延べ945名の利用があり、108名の方が就職決定に結びついていたと聞いている。引き続き実施し、ハローワークなどの関係機関と連携を強化し、より効果的なサポートの実施をしてまいりたいと考え、今定例会にも区の補助金を活用した補正予算を計上させていただいている。



錦糸町墨田公共職業安定所

◆職員の人材育成について

最近の大量定年退職の影響で、ベテラン職員が減り、技術系職員の技術継承が問題になっているが、この様な状況はいつまで続き、今後、年齢構成はどのようになるのか。また、若手職員の人材育成や活用をどのように図っていくのか。

また、育児休業法が改正され、女性職員のみならず男性職員も育休取得が可能となるが、区長はどのように受け止めているのか。

この3、4年は、いわゆる団塊の世代の定年退職等により、毎年50から80名程度の退職者が続いている。こうした傾向は平成24年度末の約90名の定年退職者をピークとして、その後毎年退職者数が減少すると推計している。

また、年齢構成については、現在、30代前半の職員数が他の年代と比較して少ない状況にあり、この数年の職員採用に当たっては、経験者採用の枠を広げ、年齢構成の平準化に努めている。

新規採用については、研修の中でコンプライアンス、公務員倫理、説明責任など、公務員としての基本事項を身に付けさせることに重点を置いて実施し、また、若手職員には、各種研修、職場内研修、ジョブ・ローテーション等を通じて、実務能力の向上及び技術の継承を行い、自らの力で事務事業を工夫・発展させていくなど、今後もしっかりと育成してまいりたい。

産休や育児休業については、職員相互の応援体制、非常勤職員・臨時職員の活用などによる態勢が、十分に準備できるように進めてまいりたい。

▼児童・生徒の教育環境について

国際化教育について

墨田区教育委員会オリジナルの副読本「SUMIDA ENGLISH」は、実践できる英会話盛りだくさんであり、最高峰の仕上がりになっているが、実際の授業では、外国人アシスタントのサポートが不足しているのか、授業内容も各校にばらつきが生じていないのか、外国人アシスタント、教員たちに対する指導は、どのようにされているのか伺いたい。

本区の英語教育は、小学校段階では、聞く、話すといった言語活動を楽しく系統的に学習することから始め、使える英語力の基礎を育んでいきたいと考え、本年四月に全小学校に配布した独自の教材は、墨田区に関連した行事や物事をふんだんに取り上げ、学びながら墨田区のことを知る構成となっており、現在、すべての小学校がこの教材を活用して英語活動教育を行っている。一部の小学校で、教員が授業の実施に戸惑っているという状況もあると聞いているが、状況の把握を十分にしたい。また、英語教育の推進、あるいは指導主事による学校訪問等を通じて指導を強めていく。

ボランテア精神の教育について

西洋人は、弱者に率先して手を差し伸べるボランティア精神を文化的に持っているが、日本人は、自分の意思を主張することが苦手な人が多く見られる。これから国際観光都市となる、すみだで育つ児童・生徒が自信を持ち、恥ずかしがらずに困っている方に積極的に声をかけ、手を差し伸べていくことが大切だと考える。このボランテア精神は国際化教育にもつながるものだが、学校では思いやりやおもてなしについてどのように指導しているのか。

子供の時期から「すみだ、やさしいまち宣言」の行動指針を踏まえた活動を体験しつつ、その心を具体的に学んでいくことが大切であるとされており、小学校高学年向けのワークブックを作成し、活用する計画も進めている。また、ボランテア体験や福祉体験等の社会的な体験活動を行うとともに、道徳教育等を通して、思いやりやおもてなしについても、引き続き指導してまいりたい。

すみだは、ものづくり・産業のまちとして発展してきたが、この「産業のまちすみだ」を引き続き担っていくのは子供たちだ。学校では、児童や生徒に仕事を体験させた後、企業経営者の話を聞いたりとする取り組みを行っているが、どのような成果があったのか、そして、教育委員会ではキャリア教育の現状をどのように捉えて、今後どのような方向性で進めていくのか伺う。

児童・生徒が、ものづくりの喜びを体験したり、勤労の尊厳を実感できる貴重なチャンスであり、自らの将来を選択していく上で重要な体験であると考えている。

平成21年度に立ち上げた学校支援ネットワーク本部の活動の一つの軸は、こうしたキャリア教育推進への支援であり、今後は、土曜日の授業を効果的に活用し、地域から学ぶ観点からの取組みを一層強めるとともに、体験的な教育活動を引き続き拡充してまいりたい。

児童・生徒の歯と視力について

昨今の子供の現代病は近視や乱視による視力低下であると言われているが、自分の身体を守る教育という観点から、自己の健康管理をどのように指導しているのか伺いたい。また、学校・家庭任せではなく、虫歯にならない歯のケアや、視力が悪くならないような生活のアドバイスなど、ドクターによるプロフェッショナルな授業を、ぜひ保健教育の中で取り上げてほしいと思うが、教育長の見解を伺う。

近視の予防や口腔内の健康問題は、生涯にわたる重要な健康上の問題であり、正しい生活習慣の育成と早期の治療で、健康な生活につなげることができると考え、現在、区では毎年全幼稚園、小・中学校で健康診断を実施しており、その中で視力の検査や歯科検診も行い、一人一人の歯や目の健康状況を把握している。また、教科指導の環として、保健学習の中で虫歯や歯周病の予防、あるいは生活の仕方と病気の関係、生活習慣病についての学習もしており、日常の保健指導においても、歯磨き指導や生活チェックシートなどを活用した一人一人の子供への指導も行っている。

ご提案の専門ドクターによる保健指導については、大変大きな教育効果が見込まれるものと考え、今後、学校医、学校歯科医や養護の教員とも協議の上、実現に向け十分研究してまいりたい。

我が会派の視察研修会

7月27日から29日にかけて、盛岡市、青森市、函館市の視察に行つてまいりました。なお、坂下修議員は公務のため欠席となりましたが、その視察研修の成果を報告いたします。

青森は日本を代表する版画家を多く輩出しており、訪問した施設は版画文化の伝承をサポートする施設として開館されたもので、作品の展示スペースをはじめ、木版画や銅版画の制作ができる「版画スタジオ」も併設し、芸術家が一定期間滞在し制作活動もできるようにもなっています。北斎館が出来る墨田区にとって大いに参考になる視察でした。

◎27日、盛岡市議会の議会改革を視察

議長との諮問機関として、議員で構成した議会制度検討委員会では、議員定数の是正、議会質問の方法等について検討を進めており、その経緯を伺ったあと本会議場を視察。今後の墨田区議会の改革にとつても参考になる話を聞くことができました。

◎29日、函館市役所でもちゅくり事業を視察

函館市は、地域の活性化を図るための市民自主研修支援制度や、まちづくり活動支援事業を実施、補助金を交付して市民活動をサポートしています。活動に必要な資金助成があることは各団体にとつても大きな力となっているところで、国際観光都市を目指す墨田区にとつても、この市民参加型の事業や補助金制度は参考になるものと思えます。



(記・福田はるみ)

小池武二さんが、地域活動功労表彰を受賞

我が会派所属の前議員・小池武二さんが、去る九月、永年にわたる議員活動を通じて地域の発展に寄与された功績により、東京都の表彰を受けられました。心からお喜び申し上げます。

平成22年度第3回定例会本会議での質問概要 (平成22年9月9日~30日)

代表質問



林 つねお

◆基本計画の改定にあたって

問 本年度は基本計画の中間年になるが、後期改定に向けての取り組みについて

答 本年度は基本計画の中間年になるが、後期改定に向けての改訂作業の取組む方と今後のスケジュールについて伺う。
問 中間の改定に向け、7月下旬から8月中旬にかけて無作為抽出で4千人の区民にアンケートを行い、施策上の重要度を満足度などについて調査をした。その結果をもとに計画事業の改善や拡充を図っていくが、できる限り速やかに中間改定の方針を定め作業に入りたい。



墨田区の基本計画パンフレット

◆改定過程における区民参加と議会の関与について

問 改定に当たっては、区民参加の方法がとられるのか、また、区議会の意見をどのように反映されるのか。

答 現在の基本計画策定過程においては、38名の区民の方々に活発な議論、提言をいただき、それを参考に基本計画事業に取り入れた経緯もある。今回の改定においても区民の目線や発想を生かした意見・要望をお聴きしたい。また、素案等の取りまとめにあたっては、その取り扱いを含めて、区議会と相談していきたい。

◆協賛・パナソニック推進条例の区民への定着について

問 いま協賛(ガバナンス)推進条例が提案されているが、その基本原則についての、施行後の取り組み方について伺う。
また、「情報の共有」については、区民から、問

題が生じたときに解決するためのアクセスできない。区議員の説明不足や情報の公開がないまま事が進むなどの苦情も出ているが、区長はどのように受け止めているか。

答 議員の説明責任、応答責任が極めて重要である。本条例案にも議員の育成に関する規定を設け、協賛(ガバナンス)の意義を踏まえた研修等を通じて、必要な知識の習得、能力の向上に努めていきたい。

問 「区政への参加」については、区民から、意見を述べても聞き置かれて、その後、審議状況の経過説明も乏しく、意欲を阻害する状況が多いと聞く。区長は、区民参加の意欲をどのように深化させるお考えか。

答 審議会等の設置目的に応じて公募の委員を加える規定を設けたが、条例案が可決されたら、直ちに、区民参加の基盤、公募の方法、選考方法等の規程整備を図っていく。
問 「条例の普及啓発」については、協賛(ガバナンス)の考え方が十分に浸透していない中、今後、多くの区民が参加する機運づくりが重要であるが、区長の所見を伺う。

答 この条例が、区民の方々に、地域で活躍するための共通の規範であることを知っていただくために、様々な機会を通じて普及啓発に努めていきたい。

◆今後の産業振興のあり方

問 東京スカイツリーの建設に伴い、本区を訪れる観光客も増加し、注目度が高まっている。本区の産業振興、特に本区のものづくり技術を守り育てていくための産業振興策について、どのように考えているか。

答 区として、商品開発と販路開拓支援という大きく二つの観点から産業振興に取り組んでいる。
その一つ商品開発支援としては、東京スカイツリー関連グッズを商品化するための地域優遇策を活用した取組み、デザイナー・プロフェッショナルな新しい商品開発の取組みを推進している。
また、販路開拓の支援としては、「すみだブランド」の重点的プロモーションをはじめ、「すみだ・もの処」での区内事業者の商品展示・販売があり、ここでの検証をもとにスカイツリーの街区内に予定している観光プラザにつなげていきたい。

問 今後の産業振興のあり方

答 東京スカイツリーの建設に伴い、本区を訪れる観光客も増加し、注目度が高まっている。本区の産業振興、特に本区のものづくり技術を守り育てていくための産業振興策について、どのように考えているか。

◆商業について

問 各地域の商店街は、区民生活を支えるという重要な役割ももっているが、観光客の巡回まち歩きという側面からも重要性が高い。今後の商業活性化についてどのように取り組むのか。

答 観光客の誘客を目的とした「押し上げ型」や「善美橋地区」では、商店会や町会により「活性化協議会」が設けられ、活性化に向けた様々な取組みが行われている。他地区においても、回遊性を高め観光客を誘客する取組みなども検討されており、その進捗にあわせて、補助金による財政的支援などを通じて事業展開を図ってきたい。また、「墨田区商店街活性化に関する条例」により、新規出店者にも積極的に加盟を促すことも含め、各商店会及び墨田区商店街連合会の組織を強化することが必要であると認識し、支援策を検討していきたい。

問 観光振興策について

答 東京スカイツリーの開業も間近だが、開業後を見据えた取り組みについて伺う。
問 本区における観光振興の基盤は「まちあるき観光」であり、区内各所に存在する名所・旧跡・うまいものなどの観光資源を掘り起こし、すみだを訪れた観光客に回遊していただくことが重要であると考える。さらに、広範な街歩き観光を推進するために、これまでに展開している街歩きルートに加え、工房ショップや小さな博物館、舟運なども活用し、すみだならではの多彩な観光ルート提案していきたいと考えている。

◆少人数学級に向けての取組み

問 少人数指導と少人数学級との違いについて

答 教育長に伺う。本区では、現行制度の中で習熟度別指導や少人数指導を行っており、一定の成果を挙げていると評価しているが、この度の国の少人数学級の計画は、墨田区の現行制度とどう違いがあるのか伺いたい。
問 今回提示されている国の少人数学級は、学級編制制そのものを、40人を基準とするものから35人へ縮小するものであり、この学級編制の小規模化により、さまざまな課題のある子どもたちへのきめ細い指導が有効になると考えられており、引き続き、国、東京都の動向を注視していきたい。

問 学級増の見込みと必要な教室の確保について

答 国の計画案どおり実施された場合、墨田区の小中学校で、どれくらいの学級数の増加が見込まれるか、また、必要となる教室数はどう確保するのか。
問 単純にシミュレーションすると、学級増の目標は40クラス増加することになる。ただ、国の計画案は、来年度に於ける小中学校全学年を対象とするのではなく、来年度は第一・二年生のみを実施し、その後は一学年ずつの8年計画で徐々に実施していくというもので、因みに、来年度入学及び進級する第一・二年生で試算すると、全体で7クラスの増となる見込みである。
また、この学級増による教室の確保については、短期的には余裕教室の普通教室への転用により対応していく。さらに長期的には、適正配置等実施計画にも一定の影響を与えることになるため、計

◆一般質問

問 画変更の必要性も含めて検討していきたい。学校選択制に係る新一年生の募集について

答 計画案が導入された場合、学校適正配置計画の見直しも視野に入れなければならないと思うが、考えを伺う。
問 国の計画案が導入されるとすれば、来年度は新一年生及び新二年生に影響が出ることになる。したがって、この9月中旬から始まる新一年生の募集においては、これまでの学校選択制度の希望状況や各学校の施設や設備状況等を十分考慮しながら、35人学級が導入されても対応可能なよう募集人数を決定する予定である。



あそうあきこ

◆食育とまちづくりへの取り組み

問 「世代をこえて笑顔でつながる楽しい食育」をテーマに実施された今年の食育フェスティバルは、大盛況だったが、区として、どう受け止めて来年度への取り組みにつなげていくか、区長の考えを伺う。

答 今年の食育フェスティバルは、生産者の出席も多く見られた。また、世代を超えた食に関する交流が広がったことも大きな成果であったと考えている。参加者の関心の対象も自らの食に関するものから食育の取り組み全般に広がるなど、すみだの食育活動が定着してきたことを実感させるものとなっており、今後のフェスティバルの展開についても大きな期待をしている。

問 小中学校での食育の取組みについて

答 小中学校では、食育についてどのように臨んでいるか、その体制と方向性について教育長に伺う。
問 現在、各学校では教職員の中から選ばれた食育リーダーを中心として「食に関する指導の全体計画」を作成し、食育の推進を図っている。また、今年度より栄養教諭が二葉小学校に配置され、区内小学校の食に関する指導の充実等も図っており、今後も、栄養教諭を中心に、各小学校の栄養士や食育リーダー等と連携しながら、食育への取組みを推進していく。

◆すみだ食育goodネットについて

問 食育関連団体のネットワーク「すみだ食育goodネット」は、地域の食育活動を推進していくことを目的としており、区としても、コーディネート役割を担う必要があると思うが、区は、今後の運営におけるソフト面の支援についてどう考えているか。

答 食育推進の中核となる団体として位置付けられており、区民を主体とした自主的な食育活動団体であることから、あくまでもその自主性を尊重しながら、財政面や運営ノウハウなどの提供等において一定の支援をしていきたい。
平成23年度中に、新たな食育推進計画として改定を予定しているが、食育推進会議等を通じて、区民や関係者の意見を十分に採り入れていきたい。また今後の課題については、現計画の達成状況等を踏まえて計画改定の中で示していきたい。

問 民間主導で着実に進歩している「すみだの食育」を、全国そして世界へ発信していくことが今後の墨田区のまちづくりにつながると思うが、その発信拠点として「すみだの食育館」を提案したい。これは食育推進リーダーを中心とする多くの区民の要望でもある。

答 食育はあらゆる人や分野につながる多様性があり、今後その力を地域の活性化に結びつけていく取組みは重要であると考えている。すみだには全国に誇れる民主体による食育のネットワークと人材があるといい、すみだの進めるやさしいまちづくりにも活かしていきたい。食育の発信拠点としての「すみだの食育館」等も含め、今後どのような施策が求められるのか、区民や関係者の意見も参考に検討していきたい。

問 子育て支援と児童虐待問題について

問 墨田区は、様々な形で子育て支援を行っているが、去る3月に行なった子育てに関する調査で判明した改善点、その後の進捗状況について伺う。

答 子どもたちが実際に動物とふれあうこと、命の尊厳や温かさを実感し、かつ心の安らぎを得ることは大変意義のあることである。現在、小学校・幼稚園等においては、ウサギなどの小動物の飼育を実施しているところもあるが、人間、動物に限らずすべての生命に対する畏敬の念を育む指導を、学校教育全体で推し進めていくことは重要であるので、「命の教室」をはじめとしたいくつかの実践例を踏まえながら検討し、学校に情報提供させていきたいと考えている。

◆人と動物の共生について

問 殺処分ゼロ推進活動について

答 犬や猫などの殺処分をなくす運動が全国に広がっており、飼い主の飼育に対する意識改革が不可欠だと考えるが、区としても殺処分ゼロ推進活動を積極的に展開していただきたい。
問 区としては、動物愛護と適正管理にいて積極的に取り組んでいきたい。また、動物愛護週間や「すみだまつり」などでパンフレットの配布や動物愛護相談を行うなどの命の大切さについて考える機会を設けたところである。今後、動物愛護に向けた民間主体の活動支援についてボランティアとの連携を深め、関係者との気運の醸成に取り組んでいきたい。

問 セミヘッドックについて

答 セミヘッドックは、精神面に悩みを抱える人や不登校の子どもの心に安らぎを与え、生きる力を授けてくれるといわれているが、句として、この普及活動に積極的に関わってほしい。また、子どもたちが実際に動物とふれあうこと、命の尊厳や温かさを実感し、かつ心の安らぎを得ることは大変意義のあることである。現在、小学校・幼稚園等においては、ウサギなどの小動物の飼育を実施しているところもあるが、人間、動物に限らずすべての生命に対する畏敬の念を育む指導を、学校教育全体で推し進めていくことは重要であるので、「命の教室」をはじめとしたいくつかの実践例を踏まえながら検討し、学校に情報提供させていきたいと考えている。



墨田児童相談所(江東橋)




すみだまつりでの研究発表パネル

構想から行動へ!! すみだ自民党

我が会派議員が所属する委員会・付属機関の一覧を掲載しました。13名の議員が、区政の各分野で発言力、提案権、行動力を持ち、区民の皆様のようなご意見、ご要望に応えられるよう、会派が一体となって取り組んでまいります。


お近くの議員または会派に、お気軽に皆様の声をお聞かせください。

中村 光雄
 ☎ 両国4-7-10-403
 3632-7870



- 区民文教委員会委員長
- 新タワー建設・観光対策特別委員会委員
- 民生委員推薦会委員
- 都市計画審議会委員
- 廃棄物減量等推進審議会委員
- 環境審議会委員
- 学童災害共済審議会委員
- 墨田まちづくり公社評議員

西原 文隆
 ☎ 押上1-25-5
 3622-9570




- 企画総務委員会委員長
- 新タワー建設・観光対策特別委員会委員
- 都市計画審議会委員
- 墨田まちづくり公社評議員
- 墨田区社会福祉事業団評議員

瀧澤 良仁
 ☎ 墨田5-33-4
 3611-4003




- 新タワー建設・観光対策特別委員会委員長
- 区民文教委員会委員
- 民生委員推薦会委員
- 都市計画審議会委員
- 墨田まちづくり公社評議員(会長)

田中 邦友
 ☎ 八広1-39-17
 3616-7014




- 議会選出監査委員
- 産業都市委員会委員
- 行財政改革等特別委員会委員
- 墨田まちづくり公社評議員
- 墨田区文化振興財団評議員

出羽 邦夫
 ☎ 八広4-11-19
 3616-5834




- 福祉保健委員会委員
- 新タワー建設・観光対策特別委員会委員
- 墨田区情報公開制度及び個人情報保護制度運営審議会委員
- 国民健康保険運営協議会会長
- 消防団運営委員会委員
- 墨田区社会福祉事業団評議員
- 墨田まちづくり公社評議員

木内 清
 ☎ 本所2-9-5
 3624-8235




- 墨田区議会議長
- 産業都市委員会委員
- 都市開発・災害対策特別委員会委員
- 防災会議をはじめ各付属機関等委員
- 墨田区土地開発公社をはじめ各公社等理事

坂下 修
 ☎ 向島3-18-10
 3626-2524




- 企画総務委員会委員
- 新タワー建設・観光対策特別委員会委員
- 都市計画審議会委員
- 墨田まちづくり公社評議員
- 墨田区社会福祉事業団評議員

山本 とおる
 ☎ 向島5-42-3
 3622-0010




- 福祉保健委員会副委員長
- 議会運営委員会委員
- 行財政改革等特別委員会委員
- 消防団運営委員会委員

樋口 敏郎
 ☎ 八広3-6-3
 3617-4129



- 墨田区議会副議長
- 企画総務委員会委員
- 行財政改革等特別委員会委員
- 防災会議をはじめ各付属機関等委員
- 墨田区土地開発公社をはじめ各公社等理事

林 つねお
 ☎ 江東橋1-8-7
 3631-1934



- 産業都市委員会委員長
- 議会運営委員会委員
- 都市開発・災害対策特別委員会委員
- 優秀技能者選考委員会委員
- 障害者施策推進協議会委員
- 墨田区社会福祉事業団評議員

沖山 仁
 ☎ 京島1-39-11-918
 3616-1050



- 議会運営委員会委員長
- 区民文教委員会委員
- 都市開発・災害対策特別委員会委員
- 都市計画審議会委員
- 墨田区社会福祉事業団評議員
- 墨田区文化振興財団評議員

すみだ区政豆知識

墨田区の人口は25万人を突破!

人口と面積
 墨田区の人口は、本年7月8日に25万人を超えました。この日に出生届を出された4人のお子さんには、証書と記念品「デジタルフォトフレーム」が贈られました。面積は、13.75平方キロメートル。東京都23区中17番目の広さになっています。人口密度は1万970人/平方キロメートル。つまり10メートル四方に約18人が住んでいるということですね。

歴史と名称由来
 墨田区は、南部が明治11年本所区として成立し、北部は南葛飾部に編入されました。昭和7年に北部は向島区となり、昭和10年の国勢調査では、本所区・向島区の合計で464,892人と東京で最も人口が集中しているエリアでした。昭和22年に、本所区と向島区が合併し、23区の一つとして墨田区が誕生しました。そのときに、新しい区の名前として、昔から広く人々に

親しまれてきた隅田川堤の通称「墨堤」の「墨」と、「隅田川」の「田」の2字を選び「墨田区」と名付けられました。


区の予算
 平成22年度当初予算は、一般会計、1,041億1,000万円、国民健康保険特別会計280億2,400万円、老人保健医療特別会計2,400万円、介護保険特別会計140億9,000万円、後期高齢者医療特別会計42億7,900万円の1,505億1,800万円です。区民一人当たり換算すると約60万円になります。その内訳は、民生費51%、教育費11.7%、土木費10.1%、総務費8.2%の順になり、これを性別にみると、義務的経費(人件費・扶助費・公債費)が51.5%を占め、投資的経費は10.6%となっています。一方、その収入は、特別区交付金35%、特別区税18.4%、国・都の支出金合わせて25%となっています。

あそう あきこ
 ☎ 菊川3-22-5
 3632-4130



- 福祉保健委員会委員
- 行財政改革等特別委員会委員
- 国民健康保険運営協議会委員
- 障害者施策推進協議会委員

福田 はるみ
 ☎ 業平4-5-16
 3625-8139



- 企画総務委員会副委員長
- 議会運営委員会委員
- 都市開発・災害対策特別委員会委員
- 青少年問題協議会委員
- 墨田区文化振興財団評議員